日本赤十字社 和歌山医療センター
Japanese Red Cross Society

新専門医制度内科領域

日本赤十字社
和歌山医療センター

内科専門医研修プログラム・・・・・・ P.1
専門研修施設群・・・・・・・・・・・ P.17
専門医研修プログラム管理委員会・・ P.75
各年次到達目標・・・・・・・・・・・ P.77
週間スケジュール・・・・・・・・・・ P.78

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は，日本内科学会 Web サイトにてご参照く

日赤和歌山内科専門医研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1）本プログラムは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院である日本赤十字社和歌山医療センターを基幹施設として，和歌山県和歌山医療圏・近隣医療圏および和歌山県や滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県等にある連携施設・特別連携施設と密に協力し合い，内科専門医研修を通じて和歌山県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるよう訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医としてこれからの医療を支えるべき医師の育成を行います.
さらに，十分とは言えない和歌山県和歌山医療圏・近隣医療圏における地域の健全な救急医療体制を維持することも理念のひとつとしています.

2）初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年コース（基幹施設内科 1 年間以上＋連携・特別連携施設 1 年間以上）と 4 年コース（基幹施設内科 1 年間以上＋連携・特別連携施設 1 年間以上）で，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.
　内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命【整備基準 2】

1）和歌山県和歌山医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.
さらに，十分とは言えない和歌山県和歌山医療圏・近隣医療圏における地域の健全な救急医療体制を維持することも重要な使命とします.

2）本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3）疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて，さらには救急対応も含めた地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4）将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1）本プログラムでは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院である日本赤十字社和歌山医療センターを基幹施設として，和歌山県和歌山医療圏，近隣医療圏および和歌山県や滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県にある連携施設・特別連携施設と密に協力し合い，内科専門医研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設内科 1 年間以上＋連携・特別連携施設 1 年間以上の 3 年コースと，基幹施設内科 1 年間以上＋連携・特別連携施設 1 年間以上の 4 年コースになります.

2）本プログラムでは，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

3）基幹施設である日本赤十字社和歌山医療センターは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核でもあります．さらに，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，さまざまな救急疾患や超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

4）本プログラムでの 1 年目（専攻医 1 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 3 年修了時点，並びに 4 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.68 別表 1「日赤和歌山疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

5）本プログラムの各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年間，並びに 4 年間のうちの 1 年間は，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行う.

6）基幹施設である日本赤十字社和歌山医療センターでの 2 年間，または 3 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時，並びに 4 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，J-OSLER に

登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（P.68 別表１「日赤和歌山疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2）内科系救急医療の専門医
3）病院での総合内科（Generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

本プログラムでの研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，和歌山県和歌山医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，Subspecialty 専属研修を中心として研修することから高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験がきることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～6)により，日赤和歌山内科専門医研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 15 名の Subspecialist 中心の研修とします．

1）日本赤十字社和歌山医療センター内科専攻医(卒後 3～6 年目)は、2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日付 27 人/年の実績があります．
2）剖検体数は 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日で 10 体、2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日で 13 体です。

表．日本赤十字社和歌山医療センター診療科別診療実績

2021 年度実績	入院患者実数（述人数/年）	外来延患者数（延人数/年）
循環器内科	19,947	25,878
消化器内科	26,181	45,812
糖尿病・内分泌内科	2,155	22,847
血液内科	11,241	9,654
腎臓内科	11,293	21,776
呼吸器内科	17,369	20,748
脳神経内科	7,522	12,108

心療内科	0	4,330
リウマチ科	0	8,711
漢方内科	0	1,923
感染症内科	4,953	2,210
救急部（救急患者総数）	2,799	1,794

心療内科，リウマチ科，漢方内科，感染症内科の入院患者は他の内科入院に包含されています．救急部の数は全科にわたる総数です．

3）入院患者，外来患者共に症例数は多く，1 学年 15 名に対し十分な症例を経験可能です．

4）13 領域のほとんどの分野の専門医が在籍しています（P.17「日赤和歌山内科専門医研修施設群」参照）．

5）1 学年 15 名の専攻医であれば，専攻医 1 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 56 疾患群，160 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です．

6）連携・特別連携施設には，高次機能・専門病院 17 施設，地域および地域密着型病院 6 施設，計 23 施設があり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です．

3. 専門知識・専門技能とは

1）専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］

専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」,「消化器」,「循環器」,「内分泌」,「代謝」,「腎臓」,「呼吸器」,「血液」,「神経」,「アレルギー」,「膠原病および類縁疾患」,「感染症」，ならびに「救急」で構成されます．

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」,「病態生理」,「身体診察」,「専門的検査」,「治療」,「疾患」などを目標（到達レベル）とします．

2）専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］

内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません．

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標【整備基準 8～10】（P.68 別表 1「日赤和歌山疾患群症例病歴要約到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．

内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します．

○専門研修（専攻医）1 年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の経験をし，J-OSLER にその研修内容を登録します．

・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します.
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年目に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）2 年～4 年（Subspecialty 専属研修）：
・Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始します.
・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します.
・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.
・既に専門研修 1 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します.
・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます.
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.
日赤和歌山内科専門研修施設群研修施設では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年コース（基幹施設内科 1 年間以上＋連携・特別連携施設 1 年間以上）と 4 年コース（基幹施設内科 1 年間以上＋連携・特別連携施設 1 年間以上）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します.

2）臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己

学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます．

③ 内科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます．

④ 救命救急センター（時間外）で全科にわたる救急診療の経験を積みます．

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます．

⑥ 将来進む subspecialty 診療科により各科の検査を担当することがあります．

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応，2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，4）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，5）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します．

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2015 年度実績 16 回）
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します．

③ CPC（基幹施設 2022 年度実績 4 回）

④ 研修施設群合同カンファレンス

⑤ 地域参加型のカンファレンス

⑥ JMECC 受講（基幹施設：2022 年度開催実績 2 回）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年目に受講．

⑦ 内科系学術集会（下記「7．学術活動に関する研修計画」参照）

⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて，以下を Web ベースで日時を含めて記録します.

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
・専攻医による逆評価を入力して記録します.
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

日赤和歌山内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載しています（「日赤和歌山内科専門研修施設群」参照）.

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である日本赤十字社和歌山医療センター研修課が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

日赤和歌山内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）.
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します.

併せて，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
② 後輩専攻医の指導を行う.
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

日赤和歌山内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します.

② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.

③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.

④ 内科学に通じる基礎研究を行います.

以上を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います.

なお，専攻医が，大学院などを希望する場合でも，日赤和歌山内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.

日赤和歌山内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます.

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である日本赤十字社和歌山医療センター研修課が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．日赤和歌山内科専門医研修施設群研修施設は和歌山県和歌山医療圏，近隣医療圏および和歌山県や滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県の医療機関から構成されています.

日本赤十字社和歌山医療センターは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院であるとと

もに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設，特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である京都大学医学部附属病院，大阪赤十字病院，大阪公立大学医学部附属病院，天理よろづ相談所病院，和歌山県立医科大学附属病院，大津赤十字病院，兵庫県立尼崎総合医療センター，神戸市立医療センター中央市民病院，北野病院，国立循環器病研究センター，京都医療センター，京都桂病院，滋賀県立成人病センター，市立岸和田市民病院，関西電力病院，神戸市立西神戸医療センター、神戸市立医療センター西市民病院、関西医科大学附属病院）、大阪府済生会中津病院，堺市立総合医療センター、倉敷中央病院、福井赤十字病院、姫路医療センター、公立豊岡病院の 24 基幹病院以外に，海南医療センター，和歌山労災病院，済生会和歌山病院，橋本市民病院，および地域医療密着型病院である中江病院，有田市立病院で構成しています．

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域および地域密着型病院では，日本赤十字社和歌山医療センターと異なる環境で，地域の第一線における医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．

日赤和歌山内科専門研修施設群(P.17)は，和歌山県和歌山医療圏，近隣医療圏および和歌山県や滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県等の医療機関から構成しています．最も距離が離れている滋賀県立成人病センターは滋賀県にあるが，日本赤十字社和歌山医療センターから電車を利用して，2 時間程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたすことはありません．

10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

日赤和歌山内科専門研修施設群研修施設では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています．

日赤和歌山内科専門研修施設群研修施設では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

11.　内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

基幹施設である日本赤十字社和歌山医療センターでは，1 ヶ月単位の内科ローテートプログラムと通年プログラムで 1 年間の専門研修を行います．

予定通り研修が進むと，2 年目以降は Subspecialty を中心とした研修を行います．

また、連携施設，特別連携施設で１年間以上の研修を行います．それ以外に大学による短期間の研修も可能です．

（モデルプログラム）

【3 年コース】

後期研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次/基幹施設	各科ローテート											
	通年プログラム											
2 年次/連携施設	連携施設での研修											
3 年次/基幹施設	Subspecialty 専属研修											

※ JMECC は１年次までに受講

※ 通年プログラム

ER 当直，入院主治医等（救急部，感染症内科，心療内科，リウマチ膠原病科，希少疾患，その他）

消化器内科志望者は腹部超音波検査，内視鏡検査等の必須研修あり

循環器内科志望者は心臓超音波検査の研修選択可能

専攻医の希望によりその他の検査等の研修選択可能

※ 2 年次の連携施設勤務は１年次あるいは３年次でも可能

※ 研修の進み具合によっては２年次３年次に各科ローテートをすることも可能

【4 年コース】

後期研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次/基幹施設	各科ローテート											
	通年プログラム											
2 年次/基幹施設	Subspecialty 専属研修											
3 年次/基幹施設	Subspecialty 専属研修											
4 年次/連携施設	連携施設での研修											

※ JMECC は１年次までに受講

※ 通年プログラム

ER 当直，入院主治医等（救急部，感染症内科，心療内科，リウマチ膠原病科，希少疾患，

その他）
消化器内科志望者は腹部超音波検査，内視鏡検査等の必須研修あり
循環器内科志望者は心臓超音波検査の研修選択可能
専攻医の希望によりその他の検査等の研修選択可能

※ 4 年次の連携施設勤務は 1 年次，2 年次あるいは 3 年次でも可能
※ 研修の進み具合によっては 2 年次，3 年次あるいは 4 年次に各科ローテートをすることも可能

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

（1）日本赤十字社和歌山医療センター研修課の役割

・日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会の事務局を行います.
・日赤和歌山内科専門医研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.
・3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
・年に複数回（8 月と 3 月に登録，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は J-OSLER を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します.
・研修課は，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門医研修評価）を毎年複数回（8 月と 3 月に登録，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，研修課もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は J-OSLER を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います.
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

（2）専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が研修委員会により決定されます.
・専攻医は Web にて J-OSLER にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年コース専門研修終了時，または 4 年

コース専門研修終了時には70疾患群を経験し，200症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は1割まで含むことができます）を経験し，J-OSLERにその研修内容を登録します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します．

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や研修課からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します．

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います．

・専攻医は，専門研修（専攻医）1 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，J-OSLER に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3年コース修了，または4年コース修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます．

（3）評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会で検討し，統括責任者が承認します．

（4）修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，以下 i）～vi）の修了を確認します．

i） 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録が必要．（P.68 別表 1「日赤和歌山疾患群症例病歴要約到達目標」参照）

ii） 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv）JMECC 受講

v） プログラムで定める講習会受講

vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門医研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2）日赤和歌山専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います．

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，J-OSLER を用います．なお，「日赤和歌山内科専門医研修プログラム専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】（別冊）と「日赤和歌山内科専門医研修プログラム指導者マニュアル」【整備基準 45】（別冊）と別に示します．

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

（P. 66「日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会」参照）

1）日赤和歌山内科専門医研修プログラムの管理運営体制の基準

i） 日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会は，プログラム統括責任者，事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（指導医）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.66 日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会参照）．日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会の事務局を，日本赤十字社和歌山医療センター研修課におきます．

ii）日赤和歌山内科専門医研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会の委員として出席します．

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います．

① 前年度の診療実績

a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d) 1 か月あたり内科外来患者延数，e)1 か月あたり内科新入院患者数，f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数．

③ 前年度の学術活動

a)学会発表，b)論文発表

④ 施設状況

a)施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催．

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数：169 人，日本肝臓学会肝臓専門医数：74 人，日本循環器学会循環器専門医数：143 人，日本内分泌学会専門医数：59 人，日本糖尿病学会専門医数：95 人，日本腎臓病学会専門医数：53 人，日本呼吸器学会呼吸器専門医数：82 人，日本血液学会血液専門医数：68 人，日本神経学会神経内科専門医数：86 人，日本アレルギー学会専門医数：25 人，日本リウマチ学会専門医数：34 人，日本感染症学会専門医数：14 人，日本老年医学会専門医数：11 人(2017 年)

14.　プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します.

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います.

15.　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.

基本的には日本赤十字社和歌山医療センターの就業環境に基づき，就業します.

但し連携施設もしくは特別連携施設就業中は当該施設の就業環境に基づき，就業します（P.17「日赤和歌山内科専門研修施設群」参照）.

基幹施設である日本赤十字社和歌山医療センターの整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
- 日本赤十字社和歌山医療センター常勤嘱託医師として労務環境が保障されています.
- メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります.
- ハラスメントに適切に対処する，苦情・相談体制が整っています.
- 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
- 隣接地に院内保育所，センター内に病児保育があり，利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.17「日赤和歌山内科専門研修施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16.　内科専門医研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，日赤和歌山内科専門医研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の研修委員会，日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項

② 年度内に改善を要する事項

③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，専門研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・担当指導医，施設の研修委員会，日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，日赤和歌山内科専門医研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して日赤和歌山内科専門医研修プログラムを評価します.

・担当指導医，各施設の研修委員会，日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます.

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

日本赤十字社和歌山医療センター研修課と日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会は，日赤和歌山内科専門医研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて日赤和歌山内科専門医研修プログラムの改良を行います.

日赤和歌山内科専門医研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は， Website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．プログラムへの応募者は，日本赤十字社和歌山医療センターの Website の日本赤十字社和歌山医療センター医師募集要項（日赤和歌山内科専門医研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．原則として書類選考および面接を行い，採否を決定して本人に文書で通知します．応募者および選考結果については日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会において報告します.

なお，一次募集で定員に達しなかった場合は，二次募集を実施し，更に定員に満たない場合は，三次募集を実施します．募集要項は上記と同様です.

(問い合わせ先)日本赤十字社和歌山医療センター人事課

E-mail: s-wada@wakayama-med.jrc.or.jp

HP: https://www.wakayama-med.jrc.or.jp/

日赤和歌山内科専門医研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく J-OSLER にて登録を行います.

18. 内科専門医研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門医研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に J-OSLER を用いて日赤和歌山内科専門医研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担

当指導医が認証します．これに基づき，日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門医研修プログラムから日赤和歌山内科専門医研修プログラムへの移動の場合も同様です.

他の領域から日赤和歌山内科専門医研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門医研修の経験としてふさわしいと認め，さらに日赤和歌山内科専門医研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります.

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません.

日赤和歌山内科専門研修施設群

研修期間：3 年コース（基幹施設内科 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）
4 年コース（基幹施設内科 3 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）

日赤和歌山内科専門研修施設群研修施設

表 1．各研修施設の概要（2023 年 4 月現在，剖検数：2022 年度現在）

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科解剖数
基幹施設	日本赤十字社和歌山医療センター	700	243	10	27	24	6
連携施設	京都大学医学部附属病院	1,121	380	10	98	50	24
連携施設	大阪赤十字病院	1,000	359	9	35	13	13
連携施設	大阪公立大学医学部附属病院	942	274	9	68	38	16
連携施設	天理よろづ相談所病院	815	305	7	32	28	30
連携施設	和歌山県立医科大学附属病院	800	221	8	52	15	21
連携施設	大津赤十字病院	796	301	7	10	10	16
連携施設	兵庫県立尼崎総合医療センター	730	286	15	38	19	24
連携施設	神戸市立医療センター中央市民病院	768	241	10	41	44	19
連携施設	北野病院	685	305	9	37	37	2
連携施設	国立循環器病研究センター	550	300	10	66	50	26
連携施設	京都医療センター	600	285	12	30	20	6
連携施設	京都桂病院	585	301	10	27	16	12
連携施設	滋賀県立総合病院	535	188	9	19	11	9
連携施設	市立岸和田市民病院	400	163	10	19	11	11
連携施設	関西電力病院	400	168	10	24	21	6
連携施設	神戸市立西神戸医療センター	475	193	9	19	17	9
連携施設	神戸市立医療センター西市民病院	358	151	9	18	14	10
連携施設	関西医科大学附属病院	751	219	12	48	35	7
連携施設	大阪府済生会中津病院	712	361	10	36	19	13
連携施設	堺市立総合医療センター	480	184	10	21	28	16
連携施設	倉敷中央病院	1,172	445	10	86	45	18
連携施設	福井赤十字病院	534	229	7	12	18	10

連携施設	独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター	411	209	7	25	23	5
連携施設	公立豊岡病院	528	169	8	17	6	4
連携施設	和歌山労災病院	303	104	6	10	5	0
連携施設	橋本市民病院	300	106	5	6	4	2
連携施設	済生会和歌山病院	200	71	6	7	4	2
連携施設	中江病院	192	120	9	3	2	0
連携施設	海南医療センター	150	86	1	6	5	0
連携施設	ひだか病院	367	77	3	6	6	1
連携施設	紀南病院	365	137	6	4	7	2
連携施設	南和歌山医療センター	316	95	5	1	4	1
連携施設	新宮市立医療センター	285	100	4	6	5	0
連携施設	有田市立病院	157	54	2	1	0	0
研修施設合計		15,060	5,643	225	737	438	304

表 2.各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
日本赤十字社和歌山医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪公立大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
天理よろづ相談所病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
和歌山県立医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
大津赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立尼崎総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北野病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立循環器病研究センター	×	△	○	○	○	○	△	△	○	×	△	△	△
京都医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都桂病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○
滋賀県立総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立岸和田市民病院	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○
関西電力病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立西神戸医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター西市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
関西医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府済生会中津病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	△	○
堺市立総合医療センター	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○

倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福井赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○
和歌山労災病院	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△	×	△	○
橋本市民病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	△	○	○
済生会和歌山病院	○	○	○	○	○	○	○	×	△	△	○	○	○
中江病院	×	○	○	○	○	×	○	×	○	×	×	×	○
海南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ひだか病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○
紀南病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	△
南和歌山医療センター	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×	×	×	○
新宮市立医療センター	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○	○
有田市立病院	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

各施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○：十分な症例数、△：症例数が少ない、×：ほとんど症例がない）にしています。

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．日赤和歌山内科専門研修施設群研修施設は和歌山県および滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県の医療機関から構成されています．

日本赤十字社和歌山医療センターは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携・特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である京都大学医学部附属病院，大阪赤十字病院，大阪公立大学医学部附属病院，天理よろづ相談所病院，和歌山県立医科大学附属病院，大津赤十字病院，兵庫県立尼崎総合医療センター，神戸市立医療センター中央市民病院，北野病院，国立循環器病研究センター，京都医療センター，京都桂病院，滋賀県立成人病センター，市立岸和田市民病院，関西電力病院，神戸市立西神戸医療センター、神戸市立医療センター西市民病院、関西医科大学附属病院、大阪府済生会中津病院、堺市立総合医療センター、姫路医療センター、倉敷中央病院、福井赤十字病院、公立豊岡病院（申請中）の 24 基幹病院以外に，海南医療センター，和歌山労災病院，済生会和歌

山病院，橋本市民病院，南和歌山医療センター、紀南病院、ひだか病院、新宮市立医療センターおよび地域医療密着型病院である中江病院，有田市立病院で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.

地域基幹病院では，日本赤十字社和歌山医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

専門研修施設（連携・特別連携施設）の選択

- 専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門医研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します.
- 病歴提出を終える専攻医 2～4 年目の 3 年間は， Subspecialty 専属研修を中心に行いますが，研修達成度によっては内科ローテート研修を継続することがあります.

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

和歌山県和歌山医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています．最も距離が離れている滋賀県立成人病センターは滋賀県にあるが，日本赤十字社和歌山医療センターから電車を利用して，2 時間程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたすことはありません.

1) 専門研修基幹施設

日本赤十字社和歌山医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･日本赤十字社和歌山医療センター常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります. ･ハラスメントに適切に対処する，苦情・相談体制が整っています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･隣接地に院内保育所，センター内に病児保育があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は 27 名在籍しています.（2023 年 4 月現在). ･内科専門医研修プログラム管理委員会が設置されており，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催実績 2 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･その他、事務対応，施設実地調査は業務部研修課が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 8 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2020 年度 10 体，2021 年度 14 体、2022 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室（24 時間利用可），統計解析ソフト JMP などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2020 年度実績 6 演題）をしています.
指導責任者	豊福　守　（循環器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　日本赤十字社和歌山医療センターは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院であり，三次医療圏・近隣医療圏にある連携・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数等	日本内科学会指導医 27 名

（常勤医）	日本内科学会認定内科医 27 名 日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会専門医 10 名 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本循環器病医学会 4 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会専門医 4 名 日本脳神経学会神経内科専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 1 名 日本感染症学会専門医 5 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名　ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　173,787 名 内科の新入院患者　　8,316 名（2021 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度准教育関連施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本肥満症学会認定肥満症専門病院 日本心身医学会研修施設　　ほか

2)専門研修連携施設

1．京都大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)　専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有 ・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)　専門研修プログラムの環境	･指導医が 98 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC（2015 年度 24 回　開催），地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)　診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13　分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)　学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2015 年度は計 53 題の学会発表をしています.
指導責任者	高橋良輔（神経内科教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都大学病院は地域医療と密接に連携した高水準の診療と未来の医療を創造する臨床研究に力を注いでいます．本プログラムの目的は初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が地域の協力病院と連携して，総合力にも専門性にも優れた内科医を養成することです．患者中心で質の高い安全な医療を実現するとともに，新しい医療の開発と実践を通して社会に貢献し，専門家の使命と責任を自覚する志高く人間性豊かな医師を育成します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 98 名 日本内科学会総合内科専門医 50 名 日本消化器病学会消化器専門医　22 名 日本肝臓学会専門医 14 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本内分泌学会専門医 16 名 日本糖尿病学会専門医 12 名 日本腎臓病学会専門医 10 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名, 日本血液学会血液専門医 9 名 日本神経学会神経内科専門医 14 名, 日本アレルギー学会専門医（内科）1名 日本リウマチ学会専門医 7名 日本感染症学会専門医 3名 日本救急医学会救急科専門医 2名ほか

外来・入院患者数	内科系延外来患者　　24,898 名（1 ヶ月平均）（298,780 名/年） 内科系入院患者（実数）　561 名（1 ヶ月平均）（　6,740 名/年〉
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・ＮＳＴ実施施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器内科） 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

2．大阪赤十字病院

認定基準 【整備基準２３】 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・大阪赤十字病院専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメントに関する相談体制が大阪赤十字病院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・病院に隣接した契約保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準２３】 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は３５名在籍しています．（下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修推進室を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのために時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（日赤フォーラム，大阪赤十字病院肝臓教室，上本町肝臓懇話会，上本町呼吸器セミナー，なにわ消化器フォーラム（病診連携消化器研究会），大阪赤十字病院懇話会，中河内呼吸器疾患連携ミーティング：2015 年度実績 9 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 11 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します. ・特別連携施設（日本赤十字社　多可赤十字病院）の専門研修では，電話などにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準２３/３１】 ３）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療いています. ・70 疾患のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 13 体，2014 年度実績 18 体，2013 年度 16 体）を行っています.
認定基準 【整備基準２３】 ４）学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室などを整備しています. ・医療倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2015 年度実績 12 回）しています. ・治験事務局を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2014 年度実績 6 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 6 演題）をしています.

指導責任者	西坂　泰夫 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪赤十字病院は，天王寺区という大阪市のほぼ中央に位置する，非常にアクセスの良い大阪市医療圏の中心的な急性期病院であり，他の大阪市医療圏・近隣医療圏にある基幹施設・連携施設・特別連携施設と内科専門研修を行い，必要に応じた柔軟性のある，救急医療，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します． 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を体感・実践できる“懐深き”内科専門医になります．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　35 名 日本内科学会総合内科専門医　13 名 日本消化器病学会消化器専門医　15 名， 日本循環器学会循環器専門医　5 名 日本糖尿病学会専門医　3 名 日本腎臓病学会専門医　3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　7 名 日本血液学会血液専門医　6 名 日本神経学会神経内科専門医　3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医　1 名 日本感染症学会専門医　2 名 日本救急医学会救急科専門医　1 名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者　4,206 名（1 ヶ月平均） 入院患者　1,915 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設

	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器内科） 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本感染症学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

3．大阪公立大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･大阪市立大学前期研究医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります. ･ハラスメント調査委員会が大阪市立大学に整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 68 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療安全 9 回，感染対策 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2014 年度実績 39 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績　15 演題）をしています.
指導責任者	平田一人（大阪市立大学内科連絡会教授部会　会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪市立大学は，大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 68 名 日本内科学会総合内科専門医 38 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名 日本肝臓学会肝臓専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本内分泌学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 9 名 日本腎臓病学会専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名 日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医（内科） 8 名 日本リウマチ学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本老年学会老年病専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　140,041 名 内科の新入院患者　　5,668 名

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本超音波学会専門医研修施設 日本循環器学会研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 など

4. 天理よろづ相談所病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 34 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績，医療安全 11 回，感染対策 12 回）します. ･CPC を定期的に開催（2014 年度実績 7 回）します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2014 年度実績　18 演題）をしています.
指導責任者	田口善夫（呼吸器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　来る高齢化社会では患者の1つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく，多疾患の同時並行的な治療を求められる．またキュアからケアへの移行，患者との死生観の共有が必要と考えられる．天理よろづ相談所病院は昭和51年よりレジデント制度を開始し，昭和53年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている．また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている．これらの経験を活かし，専門的な臓器別診療だけではなく，内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもち，チームリーダーとして幅広い視野を持った内科医を養成したいと考えている.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 34 名 日本内科学会総合内科専門医 27 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本内分泌学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　233,072 名 内科の新入院患者　　7,451 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌･甲状腺外科学会専門医制度認定施設 など

5. 和歌山県立医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･原則和歌山県立医科大学附属病院または日本赤十字社和歌山医療センターの職務規定により労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります. ･ハラスメント委員会が和歌山県立医科大学に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 40 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･人権倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　人権倫理 6 回，医療安全 18 回，感染対策 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	赤阪隆史 【内科専攻医へのメッセージ】 　和歌山県立医科大学は本院と分院を持ち，和歌山県および近隣圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 40 名 日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本内分泌学会専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 11 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本リウマチ学会専門医 3 名，ほか

外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　106,597 名 内科の新入院患者　　4,546 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本神経病理学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 ステントグラフト実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 カプセル内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本血液学会認定研修施設 骨髄移植財団認定移植施設 エイズ治療中核拠点病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会，アレルギー専門医教育研修施設 など

6. 大津赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・大津赤十字病院医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります. ・ハラスメントに関する委員会が大津赤十字病院内規程に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるよう, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は20名在籍しています(下記). ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長), プログラム管理者(副院長);内科新専門医制度検討部会から 2017年度中に移行予定)にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター(2016年度予定)を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPCを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター(2017年度予定)が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくても9分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても35以上の疾患群)について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(2015年実績16件, 2014年度実績15体, 2013年度12体)を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催しています. ・治験審査委員会を設置し, 受託研究審査会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	岡本　元純
指導医数 (常勤医)	20名 (総合内科専門医10名, 内科指導員10名)
外来・入院患者数	外来患者 33,421 名 (1 ヶ月平均) 入院患者　1,258 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70疾患群の症

	例を幅く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会認定医血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間骨髄移植認定施設 日本老年医学会認定施設 日本てんかん学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導施設

7. 兵庫県立尼崎総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要なメディカルライブラリーとインターネット環境があります．学術情報が検索できるデータベース・サービス（Cochrane, Libraly, ClinicalKey, DynaMed, MEDLINEComplete, Medicalonline, 医中誌web など利用できます. ･当院での研修中は，兵庫県臨時的任用職員として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 38 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（教育部長：総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2017 年度予定）を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017 年度予定）が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 24 体，2014 年度 17 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2015 年度実績 12 回）しています. ･治験管理室(クリニカルリサーチセンター)を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 12 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 11 演題）をしています.
指導責任者	竹岡浩也
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 38 名 日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本肝臓学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 3 名

	日本腎臓病学会専門医 4, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名 日本リウマチ学会専門医 1 名 日本老年学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名，ほか ※内科系診療科のみ
外来・入院患者数	外来患者 13,528 名（1 ヶ月平均） 入院患者　　727 名（1 ヶ月平均）※内科系のみ
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定専門医教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本東洋医学会専門医教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医訓練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医診療施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 など

8. 神戸市立医療センター中央市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています. ・ メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置しています. ・ ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合，迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は 41 名在籍しています（下記）。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全：6 回、感染対策：2 回、医療倫理：1 回）し、　専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー　など　2022 年度実績 57 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)　診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 16 体、2021 年度実績 23 体、2022 年度実績 19 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)　学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究推進センターを設置しています。 ・定期的に IRB、受託研究審査会を開催（2022 年度実績各 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 8 演題）をしています。
指導責任者	石川隆之

	【内科専攻医へのメッセージ】 富井　啓介 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER（救命救急室）、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 26,000 人以上、救急車搬入患者数も 8,700 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 41 名 日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本アレルギー学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 12 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名 日本老年医学会老年病専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 9 名 日本肝臓学会肝臓専門医 7 名 日本神経学会神経内科専門医 9 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 5 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5 名 日本救急医学会救急科専門医 14 名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者　33,982 名（1 ヶ月平均）2022 年度 入院患者　18,914 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある　13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム　基幹施設 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設

	日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設 呼吸器専門研修プログラム　基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本環境感染学会教育施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本禁煙学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本臨床腫瘍内科学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 救急科専門医指定施設　　など

<table>
<tr><td></td><td colspan="7">■地方独立行政法人 神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院</td></tr>
<tr><td></td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td><td>日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td colspan="5">内科 朝カンファレンス〈各診療科（Subspecialty）〉</td><td colspan="2" rowspan="8">担当患者の病態 に応じた診療 / オンコール / 日当直 / 講習会・学会参加など</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療 / 救命救急センターオンコール</td><td>入院患者診療</td><td>内科合同カンファレンス</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td>内科外来診療（総合）</td><td>内科外来診療〈各診療科（Subspecialty）〉</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査〈各診療科（Subspecialty）〉</td></tr>
<tr><td rowspan="5">午後</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査内科検査〈各診療科（Subspecialty）〉</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療 / 救命救急センターオンコール</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">内科入院患者カンファレンス〈各診療科（Subspecialty）〉</td><td>入院患者診療</td><td>抄読会</td><td rowspan="2">内科入院患者カンファレンス〈各診療科（Subspecialty）〉</td><td rowspan="2">救命救急センター/ 内科外来診療</td></tr>
<tr><td>地域参加型カンファレンスなど</td><td>講習会 CPC など</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など</td></tr>
</table>

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム

４．専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を実践します。

- 上記はあくまでも例：概略で、通常各診療科（Subspecialty）のスケジュールに従います。
- 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- 入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
- 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
- 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

9. 北野病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術 情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、 Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)、CiNii（NII 学術情報ナビ ゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。 ・公益財団法人　田附興風会　医学研究所　北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されて います。 ・院内の職員食堂では 250 円～480 円で日替わり定食・麺類・カレーライス等を提供しており、当直 明けには院内のコーヒーショップのモーニングセットを全員に用意します。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・院内保育所が完備され、小児科病棟では病児保育も利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は 37 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、研修委員会委員長（主任部長）（ともに指導医）にて、 基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会と医師卒後教育センター を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的 余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕 を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が 可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	塚本　達雄 【内科専攻医へのメッセージ】 　北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 37 名、日本消化器病学会消化器病専門医 10 名、日本肝臓学会肝臓専門医 7 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本透析医学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 7 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名
外来・入院患者数	外来：1,482.1 名（全科 1 日平均：2022 年度実績） 入院：16,696 名（全科 2022 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医制度研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

10. 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります. ･ハラスメント委員会が総務部に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 44 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（病病，病診連携カンファレンス 2015 年度実績 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 1 分野（循環器）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 85 演題）をしています.
指導責任者	野口　暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは，豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，基幹施設と連携して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 44 名， 日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本循環器学会循環器専門医 21 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本内分泌学会専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 17 名
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の外来患者延数　99,964 名 内科の新入院患者　　74,327 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 1 領域，10 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設

	日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設

11．京都医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･国立病院機構非常勤医師として労務環境が保障されています. ･管理課厚生係がメンタルストレスに対処し，管理課長がハラスメントの窓口となります. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 29 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（内科系診療部長），副統括責任者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）により，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016 年度予定）を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 12 回）していて，専攻医は受講することが必要です. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し，専攻医は参加することが必要です. ･CPC を定期的に開催（2014 年度実績 10 回）し，専攻医は受講することが必要です. ･伏見医師会と共同し地域参加型のカンファレンスを多数行っています. ･プログラムに所属する全専攻医は，JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 10 名）が必要です. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016 年度予定）が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 65 以上の疾患群）について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究センターを併置し，また臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2014 年度実績 12 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 11 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 10 演題）をしています.
指導責任者	小山　弘 【内科専攻医へのメッセージ】 　京都・乙訓医療圏南部の中心的な急性期病院である国立病院機構京都医療センターは，地域の医療施設と連携しつつ責任感をもって地域の医療に貢献しています．同時に，古くからの初期および後期臨床研修病院として，医師のみならず多くの医療職の教育研修の経験と意思を有しています．そのような環境の中で，内科という，医療の中でも中核を担う領域で，全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を，連携病院や国立病院機構とともに，丁寧に育てていきたいと考えています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 29 名 日本内科学会総合内科専門医 20 名 内分泌代謝科専門医 9 名

	日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会専門医 8 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本リウマチ学会専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 7 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 28,006 名（1 ヶ月平均） 新規入院患者 1,175 名（1 ヶ月平均，うち内科系 463 人）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定専門病院 FH 診療認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設など

12. 京都桂病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･嘱託常勤医師として労務環境が保障されています. ･ハラスメント相談及び苦情対応窓口あり. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 27 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会 （　統括責任者：呼吸器内科部長，総合内科専門医，指導医，プログラム管理者：循環器内科部長，指導医　） 専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と研修管理事務局(2016 年度予定)を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（年 2 回 2017 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2014 年度実績 17 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･西京医師会と共同し，地域参加型のカンファレンスを定期的に多数開催しています. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（2016 年度計画中） ･日本専門医機構による施設実地調査に研修管理事務局が対応します.（2016 年度予定） ･特別連携施設（美山診療所）の専門研修では，電話や面談・カンファレンス・委員会などにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検を行っています.（2014 年度実績 12 体(内科系 12 体), 2013 年度 20 体(内科系 17 体)　）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･臨床倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.（2014 年度実績 4 回） ･治験委員会，臨床研究・倫理委員会が別にあり，各毎月 1 会開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	西村　尚志（呼吸器内科部長，総合内科専門医） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の急性期病院で，地域がん診療拠点病院でかつ地域医療支援病院です．地域の医療施設と連携しつつ責任感を持って地域の医療に貢献しています．同時に，初期および後期臨床研修病院として，医師のみならず多くの医療職の教育研修を行ってきました．そのような環境の中で，内科という医療の中でも中核を担う領域で，全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を，連携病院とともに丁寧に育てていきたいと考えています.

指導医・専門医数 （常勤医）	内科指導医 27 名 日本内科学会指導医 3 名 日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 196,553 名（年間実数） 入院患者 17,224 名（年間実数）
病床数	585 床　（一般病棟 525 床，結核 60 床）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

13. 滋賀県立総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･滋賀県の非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（滋賀県庁内）があります. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 19 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2018 年度より開始予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（地元医師会合同勉強会，全県型のメディカル・カンファレンスなど）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 9 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験事務局を設置し，定期的に治験委員会（2015 年度実績 6 回）を開催しています. ･専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も積極的に行われています.
指導責任者	池口　滋 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は滋賀県のがん拠点病院であり，がんについて豊富な症例と数多くのセミナーを経験できます．がんに関する教育・予防，診断・治療，緩和ケア，支援体制も充実しています. 　虚血性心疾患，脳卒中，糖尿病などがん以外の生活習慣病についても，各分野の専門医や指導医が在籍しており，予防から侵襲的治療までを幅広く，深く経験することが可能です．その他の内科疾患についても，研修手帳に定める 70 疾患群を網羅的に研修することが可能です．多職種によるチーム医療も活発に行われています．当院での研修を活かし，今後さらに重要性が増す生活習慣病の subspecialty の専門医として，あるいは幅広い知識・技能を備えた generalist の内科専門医になれるよう頑張ってください.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名 日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本老年学会老年病専門医 1 名 ， ほか
外来・入院患者数	外来患者数 888.4 名（1 日平均） 入院患者数 404.3 名（1 日平均延）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会にも対応した地域医療，病診，病病連携を経験できます．特にがん・動脈硬化性疾患などの生活習慣病に関した連携が充実しています．
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度教育病院 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本循環器学会循環器専門医研修施設 ・日本血液学会認定血液研修施設 ・日本神経学会教育施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本消化器病学会専門医制度審議委員会認定施設 ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部・腹部ステントグラフト実施施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ・日本リハビリテーション医学会研修施設 ・日本感染症学会認定研修施設 ・日本病態栄養学会　病態栄養専門医研修認定施設 ・日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 ・日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 ・日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本認知症学会専門医教育施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 など

14. 市立岸和田市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･岸和田市非常勤嘱託員として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，当直室が整備されています. ･敷地外に院内保育所があります.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 19 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（医療局長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師研修センターを設置しています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（泉州循環器ジョイントスタディ，岸和田市消化器フォーラム等） ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC（2017 年度に向け整備中．現在は ICLS（2014 年度開催実績 1 回））を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構によるサイトビジットに医師研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2013 年度実績 12 体，2014 年度 3 体，2015 年度 11 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2015 年度実績 34 回）しています. ･治験事務局を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2015 年度実績 12 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	松田　光雄 【内科専攻医へのメッセージ】 　市立岸和田市民病院は，泉州二次医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏と京都府と和歌山県にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名 日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名

	日本腎臓病学会専門医 0 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医　1 名 日本神経学会神経内科専門医 0 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 0 名 日本救急医学会救急科専門医　2 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者　471.8 名（1 日平均患者数） 入院患者　166.5 名（1 日平均在院患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会関連施設認定 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本輸血細胞治療学会認定医指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設　　など

15. 関西電力病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・関西電力病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（関西電力株式会社内に設置）があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 24 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修部を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（年 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：西部大阪肝疾患地域連携会・市民公開講座，消化器センター市民講座，関西電力病院レントゲン読影会，関西電力病院糖尿病フォーラム，Kansai Diabetes Network Seminar，北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会，地域の糖尿病診療を考える会，KDF 研究会，糖尿病フォーラム，中之島循環器フォーラム）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうち 62 疾患群について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2020 年度 12 体，2021 年度 3 体，2022 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，インターネット環境などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	濱野利明 【内科専攻医へのメッセージ】 関西電力病院は 400 床を有する通常の地域中核病院であり，関西電力関係者は家族も含めて全外来患者数の約 3%です． 病院は 2013 年新築で，堂島川に面し，ビル群に囲まれた美しい都会的な環境にある一方，周辺には古い下町の面影を残す地域もあります. 内科には循環器内科，血液内科，消化器内科，糖尿病・内分泌・代謝内科，腎臓内科，呼吸器内科，脳神経内科，腫瘍内科，リウマチ・膠原病内科の 9 専門科および緩和医療科があり，充実したスタッフと共に最新設備を用いた研修を受けることができます．中規模病院であるため，診療科間の垣根が低くコンサルトが容易にできる良い伝統があります. 当院のプログラムでは，できるだけ専攻医の希望に沿ったローテートを予定し

	ており，指導医は，知識，技術の指導を細やかに行うとともに，キャリアプランなど様々な相談に乗ります．各専門科で早期に十分な症例数を経験できるため，後半には subspecialty を目指す研修も可能です． 　連携病院は京都大学，大阪公立大学，北野病院，大阪赤十字病院など大規模病院と相互連携している一方，守口敬仁会病院、丹後中央病院とも連携しており，最新の医療から地域医療まで広い範囲の研修が可能です． 　病院には関西電力医学研究所が併設されており，ヒトサンプルを用いた実験を通じて，臨床に根ざした医学研究が可能です． 　総合性と専門性，二兎を追ってみませんか．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名，日本循環器学会専門医 9 名，日本消化器病学会専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会専門医 6 名，日本肝臓学会専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 8 名，日本病態栄養学会専門医 6 名，日本内分泌学会専門医 2 名，日本血液学会専門医 5 名， 日本腎臓学会専門医 3 名，日本透析医学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 3 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名，日本神経学会専門医 6 名，日本老年医学会専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 812 名（1 日平均） 入院患者 312 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼動施設認定 日本肝臓学会専門医施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本気管食道科学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設（脳波分野、筋電図・神経伝導分野） など

16. 神戸市立西神戸医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	①研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ②地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付職員として労務環境が保障されています。 ③メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当職員・リエゾン担当看護師）があります。 ④ハラスメント委員会が機構内に整備されています。 ⑤女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ⑥　敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	①指導医は 19 名在籍しています。 ②内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長），プログラム管理者（診療部長）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ③基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と学術研修部を設置します。 ④医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑤研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2023 年度：年 2 回開催予定）し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑥CPC を定期的に開催（2021 年度実績 9 回）し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑦地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績 29 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑧プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑨　日本専門医機構による施設実地調査に学術研修部が対応します
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	①カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ②70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） ③専門研修に必要な剖検（2018 年度 14 体、2019 年度 12 体、2020 年度 6 体、2021 年度 5 体)を行っています
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	①臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています ②倫理委員会を設置し定期的に開催（2022 年度実施 2 回）しています ③治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 26 回）しています ⑤　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 3 演題）をしています
指導責任者	永澤 浩志 【内科専攻医へのメッセージ】 西神戸医療センターは神戸市西区を中心とした西地域の中心的な急性期病院であり、地域に密着した救急医療と、がん診療連携拠点病院としての高度医療を 2 本柱としています。コモンディジーズから重症疾患まで、幅広い症例を経験できます。結核病棟（50 床）を有しており、結核症例も豊富です。 また、当院は平成 6 年の開院当初より地域医療室を開設しており、一貫して地域連携を推進しています。さまざまな病診、病病連携について経験可能です。
指導医数 （常勤医）	日日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2

	名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 14,193 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月 延べ患者数） 入院患者 4,971 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月 延べ患者数） 2020 年度実績
病床	一般：423 床，結核：50 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など

17. 神戸市立医療センター西市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	一般急性期病院として、地域医療支援病院、がん診療拠点病院に準ずる病院に指定されており各科の診療レベルは極めて高いものがあります。その他大学からの見学、研修も後を絶たず、初期研修医の応募も定数の数倍となる状況です。これは若手医師の教育環境が評価された結果だと考えております。各診療科での質の高い研修のみならず、必要なら一定期間、他の専門施設での研修も可能です。学会参加や専門医取得にむけた財政支援も充実しています。後期研修終了後はそれぞれのキャリアアップへの希望を聞き、当院スタッフとしての採用をふくめ、関連施設への就職、大学院への進学を支援しております。 当院は地域中核病院、または市民病院の責務として 24 時間救急を担っております。救急外来では年間 16,000 名の患者、3,000 の救急車を受け入れていますが、各科スタッフ、専攻医、初期研修医がそれぞれの立場で救急医療に係り、さらにコメディカル、その他の職種など病院をあげて支える体制をとっています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	本プログラム専門研修施設群での３年間（基 幹施設２年間＋連携・特別連携施設１年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指 導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。　内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通し て求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに患者に人間性をもって 接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修 得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。 内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診 療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景 に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録する のではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医によ る指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を 涵養することを可能とします。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによっ て獲得されます。内科領域を７０疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれ に提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程に よって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約 や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、 カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	①内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須） ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科 系 7 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。 ③臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。 ④内科学に通じる基礎研究を行います。 科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。 内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います。 なお、専攻医が社会人大学院などを希望する場合でも、西市民病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	山下　幸政 【内科専攻医へのメッセージ】

	本プログラムは、兵庫県神戸医療圏西部の中心的な急性期病院である神戸市立医療セ ンター西市民病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏・近隣医療圏にある連携施設・ 特別連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた 実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	・指導医師 山下幸政　（プログラム統括責任者、委員長、消化器分野責任者） 小西弘起　（プログラム管理者、総合内科分野責任者） 富岡洋海　（呼吸器分野責任者） 服部英明　（腎臓分野責任者） 高橋明広　（循環器分野責任者） 中村武寛　（代謝・内分泌分野責任者） 菅生教文　（神経分野責任者）
外来・入院患者数	外来患者 827.4 人／日 入院患者 316.2 人／日 平均在院日数（短期滞在 3 を含む）　13.1 日（地域包括を除く）
病床	358 床（うち　救急 9 床、HCU7 床、身体合併 4 床、未熟児 2 床、地域包括ケア 37 床）
経験できる疾患群	「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内 容を登録します。
経験できる技術・技能	内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによっ て獲得されます。内科領域を７０疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれ に提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～５）参照）。この過程に よって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。
経験できる地域医療・診療連携	内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。市民病院内科専門 研修施設群研修施設は兵庫県神戸医療圏西部及び近隣医療圏の医療機関から構成されてい ます。西市民病院は、兵庫県神戸医療圏西部の中心的な急性期病院であるとともに、地域 の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディ ジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、 高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携 も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会専門医研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本小児科学会専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会認定専門医准教育施設など

18. 関西医科大学附属病院 （枚方）

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 •ハラスメント委員会が整備されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 •敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	•常勤の指導医は 57 名在籍しています。 •連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会を設置し、卒後臨床研修センターと協働してプログラムに沿った研修ができるように調整します。 •医療倫理（2015 年度実績 10 回）・医療安全（2014 年度実績 26 回）・感染対策講習会（2014 年度実績 15 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催（2014 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 •70 疾患群のうち 62 疾患群程度について研修できます。 •専門研修に必要な剖検（2013 年度～2015 年度の 3 年間平均で 25 体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室を整備しています。 •倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 12 回）しています。 •治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 11 回）しています。
指導責任者	塩島　一朗（内科学第二講座教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 　関西医科大学附属病院は北河内二次医療圏において中心的な役割を持つ急性期病院です。幅広い症例を経験することにより、内科全般の知識を深めることができます。また、連携施設では急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。特定の subspecialty を中心とする研修をおこなうことも可能です。
指導医数 （常勤医）	日本認定内科医 57 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 21 名、日本肝臓病学会専門医 14 名

	日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本内分泌学会内分泌専門医 2 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名、日本リウマチ学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,698 名（1 ヶ月平均）入院患者 6,213 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、12 領域、60 疾患群程度の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定研修施設 日本アレルギー学会専門医研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本期間食道学会専門医研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本内分泌学会認定教育病院 日本甲状腺学会認定施設 日本心療内科学会認定専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設

19. 大阪府済生会中津病院

認定基準 【整備基準23】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型・協力型）です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･済生会中津病院専攻医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医は36名在籍しています。 ･研修委員会：各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成され，基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ･研修委員会と臨床教育部で専攻医の研修状況を管理し、プログラムに沿った研修ができるよう調整します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2016年度11体，2017年度11体、2018年度13体）を行っています.
認定基準 【整備基準23】 4）学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ･倫理委員会を設置し、必要時に開催（2018年度実績3回）しています。 ･治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し，審査会を開催（2018年度実績11回、4回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2018年度実績7演題）をしています。
指導責任者	長谷川　吉則 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会中津病院は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどからなる済生会中津医療福祉センターの中核をなす712床の大型総合病院であり、平成28年に創立100周年を迎えました。当院は大阪市医療圏の北部地域の中心的な急性期病院として、地域の病診・病病連携の中核をなし、救急診療に力を注ぐ一方、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟も併せ持っており、急性期から慢性期まで幅広い疾患の診療経験ができます。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医36名、日本内科学会総合内科専門医19名、 日本消化器病学会消化器専門医6名、日本肝臓学会肝臓専門医1名、 日本循環器学会循環器専門医7名、日本糖尿病学会専門医6名、 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医3名、日本腎臓学会腎臓専門医2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医4名、 日本神経学会神経内科専門医6名、日本リウマチ学会リウマチ専門医2名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）2名、 日本感染症学会感染症専門医1名、日本老年医学会老年病専門医2名ほか
外来・入院患者数	外来患者(内科)14,572名（1ヶ月平均）　入院患者（内科）680名（1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本心血管カテーテル治療学会 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会認定施設　など

20. 堺市立総合医療センター

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・堺市立総合医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処するためヘルスケアサポートセンターを設置しています. ・「地方独立行政法人堺市立病院機構ハラスメントの防止等に関する要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており，内部統制室が担当しています．同要綱に基づき，ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・隣接する職員寮の敷地内に院内保育所，病児・病後児保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は33名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会において，基幹施設，連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育センターを設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会などを定期的に開催（2021年度実績eラーニング７回）し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2021年度実績21症例）し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2021年度自施設内開催実績なし）を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します. ・特別連携施設の専門研修では，指導医の連携施設への訪問に加えて電話や週1回の堺市立総合医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち内分泌を除くほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2021年度実績17体）を行っています.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，自習室，ソフトウエアなどを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2021年度実績9回）しています. ・治験推進室を設置し，定期的に治験審査会を開催（2021年度実績9回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会には，15演題(2021年度)の発表をしています.
指導責任者	西田幸司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科の理念 1. 堺二次医療圏の中核病院として急性期医療を担うことで地域医療に貢献する. 2. 優秀な内科医を育み，日本の医療に貢献する. 私が育てたい内科医は「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」です.

	自らの専門分野にとどまることなく，患者さんが抱えている問題を大きく把握し，優先順位を考えることで，その方に最適な医療を提供できる医師．それが，超高齢社会の日本で求められる内科医像だと考えます．そのためには，基礎的な内科力と総合的な判断力が必要です．当院では10年以上前から内科専攻医を受け入れ，ローテートシステムにより内科の土台作りを行ってきました．全国の「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」を目指す専攻医の皆さんとともに診療できる日を心待ちにしております．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 33 名，日本内科学会総合内科専門医 24 名， 日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会専門医 7 名， 日本肝臓病学会専門医 8 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名， 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 3 名， 日本脳卒中学会専門医 1 名，日本脳神経血管内治療学会専門医 1 名， 日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本感染症学会専門医 2 名， 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者18,795名（平均延数／月）　新入院患者969名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本救急医学会認定指導医指定施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本消化管学会暫定処置による胃腸科指導施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会認定教育研修認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育研修認定施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本IVR学会認定専門医修練認定施設 日本感染症学会認定研修施設

21. 倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･倉敷中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ･ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 86 名在籍しています（専攻医マニュアルに明記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題）をしています．又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2021 年度実績 94 演題)
指導責任者	石田　直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です.内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 86 名、日本内科学会総合内科専門医 45 名、 日本消化器病学会消化器専門医 20 名、日本循環器学会循環器専門医 14 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 10 名、 日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、 日本血液学会血液専門医 8 名、日本神経学会神経内科専門医 7 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 4 名、日本救急医学会専門医 4 名、 日本肝臓学会専門医 7 名、日本老年医学会専門医 3 名、臨床腫瘍学会 3 名、消化器内視鏡学会専門医 18 名ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数 269,728 人/年（2021 年度実績） 入院患者数 13,151 人/年（2021 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

22. 福井赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･嘱託研修医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課担当）があります. ･ハラスメント相談員が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所および病児保育施設があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 12 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（指導医），プログラム管理者（指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ･医療倫理（2021 年度実績 1 回）・医療安全（2021 年度実績 6 回）・感染対策講習会（2021 年度実績 34 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2021 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･病診,病病連携カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2021 年度 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，カンファレンスなどを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2021 年度実績 1 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 1 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています.
指導責任者	赤井　雅也 【内科専攻医へのメッセージ】 福井赤十字病院は，福井県福井・坂井医療圏の中心的な急性期病院であり，連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります. 福井赤十字病院内科専門研修プログラム終了後には，福井赤十字病院内科専門研修施設群だけでなく，赤十字医療施設間の人事交流として県外の赤十字病院で勤務することも可能です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名 日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 12 名

	日本循環器学会循環器専門医 4 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名　ほか
外来・入院患者数	外来：1249 名（全科 1 日平均：2021 年度実績） 入院：425 名（全科 1 日平均：2021 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器外科学会認定基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設　など

23. 姫路医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･姫路医療センター期間職員として待遇され賞与、超過勤務手当、当直手当の支給あり、労務環境が保障されています。 ･専攻医用宿舎があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ･ハラスメントに関して安全衛生委員会が担当しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 25 名在籍しています（2021 年 3 月現在）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：河村哲治）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･指導医も専攻医も研修状態を電子カルテ端末上でリアルタイムに管理できるよう IT 技術を駆使した本院独自の研修支援システムを構築します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2019 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（月曜会、姫路 GI 研究会、若手医師のための呼吸器勉強会、2019 年度実績 65 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（姫路市内の病院で共同開催の予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会と事務部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野において全疾患群について定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。3 分野（内分泌、腎臓、神経）については一部の疾患群で症例数が不足していますが連携施設での研修で十分な研修が可能です。 ･専門研修に必要な剖検（年間平約 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月 1 回開催）しています。 ･臨床研究推進室（治験管理、自主研究管理）を設置し、受託研究審査会も毎月 1 回開催しています。
指導責任者	河村哲治 【内科専攻医へのメッセージ】 ･姫路医療センターには、ややもするとありがちな出身大学間や人間関係の軋轢がなく、アットホームな雰囲気で研修に集中でき、従来の後期研修医からも人気を集めており、後期研修終了後は常勤医師に昇進する例が大多数を占めています。 ･本院独自に開発している研修支援システムは、細かな規則も含めたカリキュラム規定をすべて盛り込んで全専攻医が能率的に確実にカリキュラムを消化できるようにテクニカルな側面から強力に支援を行うものであり、リアルタイムに研修進行過程を視覚的に確認することが可能であり、安心して研修に集中する

	ことを支援します。 ･研修支援システムの補助により、内科全科同時研修進行を可能としており、希少症例もタイムリーに経験することを可能とし、無理のない学会報告をも可能としています。 ･サブスペシャルティの並行研修を行うことを強く意識していますが、それを希望する場合は研修支援システムの補助のもと研修進行状況を厳重に管理し実現に向けて最大限の支援を行います。 ･とくに呼吸器、消化器については先進的なサブスペシャルティ研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名 日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本消化器内視鏡学会専門医 10 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本糖尿病学会指導医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 9 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 8 名 日本呼吸器内視鏡学会指導医 4 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 6 名 日本リウマチ学会指導医 3 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本感染症学会指導医 1 名　　ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数 58,271 人/年（令和 3 年度実績） 入院患者数 66,245 人/年（令和 3 年度実績）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例について、腎疾患、神経疾患については一部の疾患群で症例数が不足しているが、その他は幅広く経験することができます。不足領域は連携病院での研修で十分研修できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

24. 和歌山労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･和歌山県立医科大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります. ･ハラスメント委員会があります. ･女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室，更衣室，仮眠室，シヤワー室，当直室が整備されています. ･近くに院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 10 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. 医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2014 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･基幹病院で開催される地域参加型カンファレンスの受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，ほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	中　啓吾 【内科専攻医へのメッセージ】 　和歌山労災病院は和歌山県内の基幹病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が基幹病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．また医療安全を重視し，患者中心のチーム医療サービスが提供でき，これからの医療を担える医師を育成することを目的とするものです
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本呼吸器内視鏡学会指導医 1 名 日本神経学会指導医 1 名 日本消化器病学会指導医 4 名 日本糖尿病学会指導医 1 名 日本内分泌学会指導医 1 名 日本認知症学会 1 名 日本肥満学会指導医 1 名，ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　75,610 名 内科の新入院患者　　2,560 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，一部を除き実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本胆道学会指導施設 日本気管食道科学会研修施設 など

25. 橋本市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室や研修用の DVD とインターネット環境（Wi-fi）完備しています. ・橋本市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・セクハラスメント,メンタルストレスに適切に対処する部署（職員安全衛生委員会）があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・総合内科指導医が 3 名,移行期間措置での指導医は 3 名在籍しています(下記). ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績は医療安全 2 回,感染対策 2 回）し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画するように勤務を調整します. ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 2 回）しています. ・地域参加型のカンファレンス(2015 年度実績年 6 回)を定期的に開催しています.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,総合内科,消化器,循環器,呼吸器,内分泌,代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 2 演題） を予定しています.
指導責任者	藤田悦生（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は地域の中核病院として，様々な疾患やマルチプロブレムのある高齢者など，多様な患者を診ることができます．教育にも力をいれており，ともに学んでいく場を整備しております.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名 日本心療内科学会登録医 1 名 日本アレルギー学会指導医 1 名 抗菌化学療法認定医 1 名 日本糖尿病学会研修指導医 2 名，ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　38,807 名 内科の新入院患者　 1,783 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	地域包括医療ケア認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本アレルギー学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定関連施設 日本乳癌学会認定医／専門医認定関連施設 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設 日本病理学会研修登録施設 など

26. 済生会和歌山病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があり，医学中央雑誌による検索がいつでも可能です．New England of Journal，Lancet 等の一流雑誌を購読していますので，最新の医療情報に触れることができます. ・研修医，専攻医の個人デスクがあり，シャワー室，仮眠室，更衣室，労務環境が保障されております. ・24 時間の託児所との連携があります.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在籍しております. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（2014 年度実績 医療倫理 2 回，医療安全 2 回，医療安全 12 回，感染対策 12 回），必要であれば専攻医が受講できるように致します. ・地域参加型カンファランス（病診連携会議）（2014 年度実績 2 回）を定期的に開催し，専攻医が受講できるように致します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しております.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは地方会に年間計 1 演題以上の学会発表をしております.（2014 年度実績 2 演題）
指導責任者	川口雅功　（消化器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は 2 次救急病院であり，主に地域開業医，他の 2 次救急病院，療養型病院等と密に連携をしております．プライマリーケアから，更に隠れた疾患を自分の力で発見・精査を進めて，的確な診断に至るプロセスをきっちり勉強ができます．医師数が大病院ほど多くありませんが，内科医師数に占める指導医の割合が高いのでレベルの高い診療技能を身に着けることが可能です．更に病理医は非常勤ですが緊密な連携が取れており，自分の下した診断が正しいか検証をしやすい環境にございます．Co-medical Stuff からのサポートがあり，薬剤，感染，栄養関連も最新のトピックが勉強しやすい環境です．当院での研修をお待ちしております.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 2 名 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士認定教育施設指導医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本心血管インターベンション治療学会認定医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓病学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　35,704 名 内科の新入院患者　1,473 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会認定 和歌山県立医科大学附属病院教育関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本病態栄養学会認定　栄養管理・NST 実施施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士取得に関わる実地修練施設 日本静脈経腸栄養学 NST 稼働施設認定 など

27. 中江病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·研修に必要な自習室とインターネット環境があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·当直室にはシャワー室が整備されています. ·敷地内に院内託児所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·研修にあたる指導医が 3 名在籍しています. ·医療安全・感染対策講習会を定期的に年 2 回開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·症例検討会（1～2 回/週）開催し，専攻医も参加してもらいます. ·地域連携のための講演会を定期的（2 回/年程度）に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を含む，消化器，循環器，呼吸器，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	熊本光孝（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 中江病院は，和歌山県内の協力病院と連携して地域医療の充実に向けて活動を行っています．慈愛と進歩の理念に基づき，単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供できるように常に自己研鑽をし，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名 日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医 3 名，ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　36,718 名 内科の新入院患者　　1,039 名
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域，38 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 など

28. 海南医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・日本内科学会専門研修連携施設です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ・人権接遇委員会が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在席しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設もしくは日本内科学会で行われる CPC について，専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・そのたの合同カンファレンスなどの際には，専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全て（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急）の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会もしくは日本消化器学会，日本消化器内視鏡学会などの内科関連学会に年間で計 1 題以上の学会発表をしています.
指導責任者	喜田　洋平（内科医長・臨床研修センター長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　海南医療センターは平成 25 年 3 月に新病院として開院し，内科，小児科，外科，整形外科，泌尿器科，婦人科，皮膚科，麻酔科，リハビリテーション科を有する 150 床の海南市・海草郡の急性期病院です．日本赤十字社和歌山医療センターおよび和歌山県立医科大学付属病院の日本内科学会専門研修連携施設，和歌山県立医科大学の協力型研修病院です．基幹施設と協力の上，質の高い内科医の育成に努めたいと考えています．また単に内科医を養成するだけではなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスを提供でき，医学の進歩に貢献し，地域医療の現状をよく理解した日本の医療を担える医師を養成できますよう精進してまいります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　23,996 名 内科の新入院患者　　1,218 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期治療だけでなく，超高齢者社会に対応した地域に根差した医療が経験できます．病診連携，病病連携もしくはそれに基づく勉強会・研究会なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 など

29. ひだか病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・研修にあたる指導医が 6 名在籍しています。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・症例検討会を定期的に開催し、専攻医に出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の、9 の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検は年間 1 体以上おこなっています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室（24 時間利用可）を整備しています。 •倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	西川　泉（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 ひだか病院は、1949 年に設立されて以来、地域の中核病院として医療を担ってきました。 　当院の特色は、和歌山県内の地域中核病院の中で５疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、５事業（周産期医療、救急医療、小児医療、災害時における医療、へき地医療）をおこなえる唯一の病院であるということです。これにより、当院では内科領域の研修はもちろんとして、内科という枠組みにとらわれず他科疾患を含めた全人的なアプローチで患者と向き合える医師の育成を目指しています。 　研修は主担当医として、入院から退院、退院後の外来までを経時的かつ横断的に診断・診療できる体制を整えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　6 名 日本内科学会認定内科医 10 名 日本内科学総合内科専門医　6 名 日本消化器病学会専門医　3 名 日本循環器学会専門医　5 名 日本糖尿病学会専門医　2 名 日本リウマチ学会専門医　1 名 日本消化器内視鏡学会専門医　3 名
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数　31,365 人/年（　2021　年度実績） 入院患者数　　2,029 人/年（　2021　年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	・　日本内科学会認定関連施設 ・　日本消化器病学会認定施設 ・　日本消化器内視鏡学会指導施設 ・　日本循環器病学会研修施設 ・　日本糖尿病学会認定教育施設

30. 紀南病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修病院に指定されています。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所が設置されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・研修にあたる指導医が４名在籍しています。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・症例検討会を定期的に開催し、専攻医に出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の、　　の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	中野好夫（内科医局長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院では専門医研修に必要な症例が豊富に経験できます。また、各診療科の垣根が低く、他科の専門医に相談しやすくなっています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科医７名 日本内科学会認定内科医１５名 日本消化器病学会消化器専門医５名 日本糖尿病学会専門医４名 日本呼吸器学会呼吸器専門医４名 日本感染症学会感染症専門医１名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医１名 日本循環器学会循環器専門医２名 日本肝臓学会肝臓専門医１名 日本血液学会血液専門医１名 日本腎臓学会腎臓専門医２名 日本透析医学会専門医２名　ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数　４１，５３８人/年（２０２１年度実績） 入院患者数　３８，９９４人/年（２０２１年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、感染症は十分な症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会専門教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本感染症学会認定施設 臨床腫瘍学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設　ほか

31. 南和歌山医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット慣行があります。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・研修にあたる指導医が１名在籍しています。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・症例検討会を定期的に開催し、専攻医に出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の、６の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	金　栄浩（内科医長） 【内科専攻医へのメッセージ】 南和歌山医療センターは、和歌山県南部の三次救急を担う急性期病院であり、地域の医療ニーズを考え、緩和ケア病棟も開設しております。　当院は、超急性期医療から、最新がん治療、終末期医療までをカバーしており、「思いやりのある医療」の基本理念を実践すべく日夜努力しているところです。 当院では、主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療を指導医の適切な指導のもと行います。
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会専門医１人 日本内科学会専門医３人 日本消化管学会専門医１人 日本消化器内視鏡学会専門医３人 日本消化器病学会専門医３人 日本消化管学会胃腸科指導医１人 日本神経学会専門医１人
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数　35,816 人/年（2021 年度実績） 入院患者数　　2,664 人/年（2021 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のなかでも、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、救急は十分な症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会教育関連病院 日本循環器学会専門医研修関連施設 日本高血圧学会研修施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

32. 新宮市立医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ・和歌山県立医科大学専攻医と同等の労務環境（給与体系・社会保障・宿舎など）を整えます。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（wi-fi）があります。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・研修にあたる指導医が 6 名在籍しています。 ・内科専攻医研修員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム委員会と連携を図ります。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的（年 2 回）に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・症例検討会（週 2 回）を定期的に開催し、専攻医に出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器、血液、アレルギーに関する常勤の専門医は不在ですが、他施設と連携するなどしてほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	峯園　浩二（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 広大な医療圏（新宮医療圏、三重県や奈良県南部）を持つ当センターは、大都市圏とは、距離的にも時間的にも遠隔の地であり、地域完結型の医療が必要とされます。また、地域の中核病院として、1 次から症例によっては 3 次までの救急を含め地域に密着した医療を提供しており（本年 4 月よりＨＣＵ５床を新設）、多種多様で豊富な臨床症例を経験することができます。 症例によっては、県立医大などの高次医療機関との病病連携を図り、対処しています。 病床数は 285 床と多くはありませんが、院内連携はもとより（医局内での垣根が低い）、「地域医療支援病院」として、病診連携を取りつつ地域医療の発展に努力しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本内科学会認定内科医 8 名 日本循環器学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本糖尿病学会指導医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名 日本消化器病学会指導医 1 名 日本消化器病学会専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本老年病学会専門医 1 名

	日本神経学会神経内科専門医１名 日本神経学会指導医１名 日本透析医学会透析専門医１名 日本透析医学会透析指導医１名
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数　44,422 人/年（2021 年度実績） 入院患者数　2,130 人/年（2021 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、神経、膠原病、感染症、救急は十分な症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本消化器病学会関連施設 日本神経学会専門医制度准教育施設

3）専門研修特別連携施設

1．有田市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります． ･地方公務員法に基づく，適切な労務環境を保障しているとともに，公平委員会が有田市に設置されている． ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています． ･敷地内に院内託児所等があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です．
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 1 名在籍しています（下記）． ･研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります． ･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器および循環器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方大会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています．
指導責任者	野尻庸功（循環器科医長・医療安全対策室長） 【内科専攻医へのメッセージ】 有田保健医療圏唯一の公立病院として，急性期，回復期，予防，在宅医療（訪問看護ステーション）の提供を担っています．また，救急告示病院，災害拠点病院，地域医療の基幹病院としての役割を担っています．和歌山県立医科大学の臨床研修協力型病院として，人材の育成に取り組むとともに，地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムにおける連携施設として，質の高い内科医を育成できるものと考えています．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全や感染管理を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，地域の医療を担える医師を育成できるものと考えます．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 5 名 日本循環器学会認定循環器専門医 1 名 日本消化器病学会専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者　12,916 名 内科の新入院患者　　273 名
病床	157 床（一般病床 153 床　感染症病床 4 床）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．

経験できる地域医療・診療連携	急性期・回復期（地域包括ケア）医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会関連施設 日本循環器専門医研修施設 など

日赤和歌山内科専門医研修プログラム管理委員会

（2023 年 4 月現在）

日本赤十字社和歌山医療センター

委員長（内科領域プログラム統括責任者)　消化器内科部主任部長　上野山　義人
委員　院長　山下　幸孝
委員　消化器内科部長　赤松　拓司
委員　循環器内科部長　豊福　守
委員　糖尿病・内分泌内科部長　金子　至寿佳
委員　血液内科部長　直川　匡晴
委員　腎臓内科部長　東　義人
委員　副院長　杉田　孝和
委員　呼吸器内科部長　池上　達義
委員　脳神経内科部長　山下　博史
委員　心療内科部長　直川　匡晴
委員　感染症内科部長　古宮　伸洋
委員　消化器内科部副部長（JMECC ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ）　瀬田　剛史
委員　病理部長（CPC）　小野　一雄
委員　管理局長　内田　一彦
委員　看護部長　東田　裕子

連携施設担当

委員　京都大学医学部附属病院　腎臓内科講師　横井　秀基
委員　大阪赤十字病院　脳神経内科主任部長　尾崎　彰彦
委員　大阪公立大学医学部附属病院　消化器内科講師　大谷　恒史
委員　天理よろづ相談所病院　副院長　田口　善夫
委員　和歌山県立医科大学附属病院　血液内科　教授　園木　孝志
委員　大津赤十字病院　腎臓内科部長　前田　咲弥子
委員　兵庫県立尼崎総合医療センター　腎臓内科部長　田中　麻理
委員　神戸市立医療センター中央市民病院　副院長　富井　啓介
委員　北野病院　消化器センター（内科）主任部長　塚本　達雄
委員　国立循環器病研究センター　心臓血管内科部長・教育研修部長　野口　暉夫
委員　京都医療センター　総合内科診療科部長　小山　弘
委員　京都桂病院　血液内科部長　菱澤　方勝
委員　滋賀県立総合病院　糖尿病・内分泌内科部長　山本　泰三
委員　市立岸和田市民病院　消化器内科部長　花岡　郁子
委員　関西電力病院　脳神経内科部長　濱野　利明
委員　神戸市立西神戸医療センター　副院長 兼 消化器内科　井谷　智尚
委員　神戸市立医療センター西市民病院　副院長　富井　啓介
委員　関西医科大学附属病院　内科学第二講座　教授　塩島一朗
委員　大阪府済生会中津病院　脳神経内科部長　井上　学
委員　和歌山労災病院　内科部長　若﨑　久生
委員　橋本市民病院　副院長　藤田　悦生

委員　済生会和歌山病院　消化器内科部長　川口　雅功
委員　中江病院　副院長　熊本　光孝
委員　海南医療センター　内科医長　喜田　洋平
委員　堺市立総合医療センター　消化器内科医長　藤森　正樹
委員　倉敷中央病院　副院長　石田　直
委員　福井赤十字病院　腎臓・泌尿器科部長　伊藤　正典
委員　独立行政法人国区立病院機構　姫路医療センター　内科系診療部長　和泉　才伸
委員　ひだか病院　副院長　西川　泉
委員　紀南病院　内科医局長　中野　好夫
委員　南和歌山医療センター　内科医長　金　栄浩
委員　新宮市立医療センター　院長　中井　三量

幹事　人事課長　伊賀　裕三
幹事　研修課長　北口　智彦
書記　人事課　課長補佐　和田　収司
書記　研修課　課長補佐　中西　英登

オブザーバー
内科専攻医 2 名

別表 1　　日赤和歌山疾患群症例病歴要約到達目標

	内容	専攻医 3 年終了時 専攻医 4 年終了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医 1 年終了時 終了要件	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	
	消化器	9	5 以上※1※2	3※1
	循環器	10	5 以上※2	3
	内分泌	4	2 以上※2	3※4
	代謝	5	3 以上※2	
	腎臓	7	4 以上※2	2
	呼吸器	8	4 以上※2	3
	血液	3	2 以上※2	2
	神経	9	5 以上※2	2
	アレルギー	2	1 以上※2	1
	膠原病	2	1 以上※2	1
	感染症	4	2 以上※2	2
	救急	4	4※2	2
外科紹介症例				2
剖検症例				1
合計※5		70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	29 症例 (外来は最大 7) ※3
症例数※5		200 以上 (外来は最大 20)	160 以上 (外来は最大 16)	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する．
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる．

別表 2
日赤和歌山内科専門医研修　　週間スケジュール（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来診療，病棟業務，救急当番，各種検査実施/見学等，通年プログラム 診療科によっては就業時間前ミニレクチャー，抄読会等				
午後	外来診療，病棟業務，救急当番，各種検査実施/見学等，通年プログラム 各科カンファレンス，横断的カンファレンス，研修会，ER 当直等				

★ 日赤和歌山内科専門医研修プログラムは「４．専門知識・専門技能の習得計画」に従い，内科専門医研修を実践します.

・上記はあくまでも例：概略です.

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより，担当する業務の曜日，時間帯は調整・変更されます.

・入院患者診療には，内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます.

・日当直やオンコールなどは，内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します.

・地域参加型カンファレンス，講習会，CPC，学会などは各々の開催日に参加します.